

第 25 回横須賀市社会福祉審議会福祉専門分科会議事録

1 日 時 令和 7 年 1 月 17 日（金） 13：30～：14：40

2 場 所 横須賀市役所 消防庁舎 4 階 災害対策本部室

3 出席委員 ◎玉川委員、○橋本委員、青木委員、石田委員、磯崎委員、
岩澤委員、井上委員、白井委員、豊島委員、松尾委員、
渡部委員

欠席委員 なし

◎…分科会長 ○…分科会長職務代理者

4 事務局 民生局福祉こども部福祉総務課 清水課長、村上担当者
地域福祉課 中島課長、栗原課長補佐

5 傍聴者 0 名

6 開 会
進行：福祉総務課 清水課長

7 定足数報告

定数 11 名中、11 名の出席があり、横須賀市社会福祉審議会条例第 4 条第 4 項の規定により、会議が成立している旨を報告した。

8 一般傍聴報告
傍聴の申し出がない旨を報告した。

9 議 事

（1）前期の地域福祉計画の進行管理等について

ア 説明

事務局から資料 1 に基づき、前期の地域福祉計画の進行管理等について説明した。

イ 質疑

（分科会長）

現在の地域福祉計画、その前期の計画ということで、数値目標は設定され

ていないが、市民アンケートの回答結果でモニタリングしたということである。また、令和5年度までの数値を見ると、若干、回答結果の数値が伸び悩んでいる。

本件に関して、委員の皆様方から、ご意見、ご質問等いただきたい。

(岩澤委員)

令和5年度と基準年度を比較して見ると、基準年度に対して、令和5年度は1項目当たり平均してマイナス3.2ポイント程度の数値になっている。

この3.2ポイントという数値は、厳しい状態なのか、あるいは、この程度は様子見なのか。どう理解したらよいか、確認させていただきたい。

(事務局)

全体的に下がっているが、その中でも、N0.3の「近所付き合いに対する考え方」についての結果が大きく下がっている。これについては、様々な繋がりを創出していけるような活動をしていかなければいけないと考えている。

また、N0.5の「福祉の関心」についての結果も、大きく下がっている。私の個人的な意見も含めてだが、福祉に関心がある方を増やして、そこから広げていくというところが大事であると思っている。

(渡部委員)

参考資料のアンケート結果も併せて見ると、「近所付き合いに対する考え方」の設問について、年代別の比較があるが、「10代」、「20代」の若い人はとても低い数字になっている。いろいろ分析があり、これだけでは分からないが、それより上の世代になると、子どもが保育園・幼稚園、小学校に通うようになり、親同士の繋がりなどで少し増えるとか、そういったこともあるのかなと思う。

また若い世代は、SNS等により、直接会って言葉で会話をするのではなく、世の中とネットで繋がっているから充分だというようなものもあるのかと思う。

横須賀市、また全国的に言うと、どのような傾向があるか、分かれば教えてもらいたい。

(事務局)

若い人に限らず、コロナで分断した時にSNSなどの活用が進んだこともあると思う。便利になるのは非常によいことだが、横須賀市に限らず、全国的に直接的な繋がりが希薄化していると思う。

一方で、SNSを利用した繋がりが決して悪いわけではないとも考えている。SNSを利用して、情報を行政側からも投げかけることもできる。また地縁や属性ではない、繋がりを広げていくことも出来ると思う。今はその活用方法を模索している段階であると思うが、特に若い方に向けては、SNSの活用をもっと進めていきたいと考えている。

(分科会長)

他にご意見、ご質問等あればお願いしたい。

(分科会委員一同)

質疑なし。

(分科会長)

それでは、議事（１）前期の地域福祉計画の進行管理等については、以上としたいと思う。

以降の議事に関連するところもあるので、議事（２）横須賀市地域福祉計画等の策定に係る地域別報告会の開催結果について、事務局の方から資料を用意していただいた。こちらについて、事務局の方から資料の説明をお願いしたいと思う。

(２)「横須賀市地域福祉計画」等の策定に係る地域別報告会の開催結果について
ア 説明

事務局から資料２に基づき、「横須賀市地域福祉計画」等の策定に係る地域別報告会の開催結果について説明した。

イ 質疑

(分科会長)

地域別報告会の開催結果について、それぞれの地域で出た議論を、テーマ別におまとめいただいて、簡単にご説明いただいたと思う。

本件について、委員の皆様の中にも地域別報告者の参加者がいるかもしれないが、地域で出たご意見も含めて、お話いただければと思う。

(岩澤委員)

大変細かいことで恐縮だが、この資料にいくつか気になったところがあるので、申し上げたい。

まず１ページ目だが、地区社協の単位について。各地区の開催日時場所の、一番左側の列に、地区が入っているが、中ほどに「大津①」、「大津②」となっていて、下に注釈がついているが、この①や②というのは、右側の列の「開催日時・場所」に移して、１回目とか２回目といった表記にするのはいかがか。

次に１ページ目の右上の資料番号の表記だが、「横須賀市社会福祉審議会」の「会」という字が抜けている。資料３も同様である。こちらは、訂正していただきたい。

それから、２ページ目、４番の「地域別意見報告会における参加者からの意見」とあるが、「地域別意見報告会」の「意見」も不要ではないだろうか。細かいことばかりで恐縮だが、感じたところは以上である。

(分科会長)

細かいご指摘をいただきありがたい。修正しなくてはならないところは、修正していただければと思う。

(事務局)

ご指摘いただきありがたい。修正をさせていただく。

(橋本委員)

開催日時・場所について開始時刻は記載されているが、終了時間はあえて記載しなかったということによいか。

(事務局)

大変申し訳ないが、記載していない。終了時間は1時間半前後が多かったと記憶しているが、各地区によって参加人数も違い、時間の幅があったのは確かである。

(橋本委員)

熱意という言い過ぎかもしれないが、開催時間によっても、その地区の熱意が伝わると思う。30分程度で終わったのか、白熱して長時間だったのかといったことは、時間から感じられるかと思う。差し支えなければ、終了時間の記載があってもよいと思う。

(松尾委員)

この報告会については、社協も市と一緒に参加した。社協が作成したアクションプランについても、地区の方にご説明させていただいた。

資料2の3ページ(4)地域活動について、①地域の担い手不足と記載されているが、どこの地区に行っても、担い手不足の問題について、皆さんがおっしゃっていた。民生委員や町内会・自治会もそうだが、なり手がいなくて困っている方が多かったというのは、実際にご意見をお聞きして感じたところである。

社協に関しては、資料2の2ページ(3)市社協、市社協アクションプランについての2つ目にもあるが、財政状況もついてのご意見もいただいた。4ページ(6)では社会福祉推進委員、(7)では地区ボランティアセンターについては、やはり多くご意見をいただいた。

私は全地区回ったが、地区によって特有の課題があり、一方では、共通した課題もあることがよく分かった。

地区ボランティアセンターについては、現在は、どの地区でも同じような形で設置している。社会福祉推進委員についても、現在は70世帯から100世帯に1人をお願いしているところだ。そもそもの話になってしまうが、社会福祉推進委員についても、地区ボランティアセンターについても、必要なのか、人数が多いのか、少ないのかといったことも、ご意見をいただいた。

また、今回、アクションプランにもご意見はいただいたが、それに付随す

るような地区の課題のご意見もいただいた。

民生委員の一斉改選も来年度にあり、令和8年4月には、社会福祉推進委員の改選もある。社協としては、そうした中で地区の意見に寄り添いながら、どういったことを、どうしていくことが一番よいか、考えていきたいと思う。

また市と一緒に懇談会を開かせていただける機会があれば、社協の職員もなるべく地区の方に出ていき、市内画一的にやるのではなく、その地区その地区で困っていることや課題をくみ上げ、出来る限り対応していくことが必要だと感じたところだ。一緒に回った仲間としては、感想にもなってしまうが、そのように感じた報告会であった。

(分科会長)

実際にご参加いただいて、現場での様子も踏まえたコメントだったかと思う。こうした情報についても、分科会で共有したいと思う。さらに、各委員にも関わってくるところであるため、社会福祉関係部局の方でも、共有をしていただきたいと思う。

最終的には、先ほどアンケートにもあったように、福祉に対する関心など、そういったところを全体で底上げしていかないと、解決するにも難しい話もあると受けとめた。

(豊島委員)

私も報告会に参加した。この資料を見て、なるほどと思った意見は、資料2の3ページの「(3) 令和5年度地域別意見交換会、市民アンケートの調査結果について」の中の上から2つ目の意見である。「高齢者の立場で考えれば、引っ越しは面倒なので、今の場所に住み続けたいという意見が多いのは当たり前ではないか。」というのは「確かにそうだ」と思った。実際にそのあとの設問にある、「高齢者が暮らしやすいまちか」という設問では、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答は、合わせると半数以下という結果である。

他の設問についても見ていくと、「困ったときに助け合えるまち」や、「子育てしやすいまち」なども、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、半数以下になっている。

資料1のN0.1の設問では、83～85%の方が「今後も横須賀市に住み続けたい」と思っているとのことだが、実際にはこういう結果が出てきている。この問題の解決策を市に検討してほしいと思った。

(事務局)

「今後も横須賀市に住み続けたいか」という設問については、確かに年齢が上がるごとに「住み続けたい」という回答が増えていて、逆に「20代」、「30代」の若い方だと、70%ぐらいに留まっている。ここを増やしたいし、増やす努力をしたいが、これは福祉部門だけでなく、市全体で取り組む必要があ

と思う。力を入れて取り組んでいかなければいけないと思っている。

(分科会長)

アンケートをとろうとしている母集団と実際に回答をしていただいたサンプルがどういう関係にあるかという、良くも悪くも、やはり内容について関心がある方や今後も関わり、関係を持っていたい、という方が回答されていると思う。答えてもらった段階で、ある程度関心を持っている方なのかと思う。

ただ、関心を持っていても、課題があるので、そこをどう解決できるかということなのかと思う。そこが難しい問題でなくなれば、よりまた関心を持ち続けたいと思う人が増えてくるかと思う。その、読み取り方をどうするかというのは、各地区でも考えていかななくてはならない話であると受けとめた。

(青木委員)

今の意見のところについてだが、アンケートで高齢者が、「現在も今住んでいるところに住み続けたいか」というのは、この設問では本当のところは分からないと思う。

例えば交通の便だとか、買い物だとか、そういった項目について聞くべきだが、これは福祉の設問ではないと思う。

複合的になるが、もう少し多角的に分析する必要があると思う。本当に福祉が駄目だから、このようなアンケート結果になっていると判断するのは違うように思う。よってこの結果だけでは、本当の意見は分からないと感じた。

(分科会長)

本当に深いところまで掘ろうと思うと、地区毎の話があるので、どこまでアンケートの段階でとらえて、どこまでが地区での実際の個別課題としてあるのか、といった整理をする必要があるかもしれない。

地域別の報告会については、今後も進行管理に合わせて、節目の時に今のような実態の分析や議論できるような場をつくるという意味でも、引き続き開催する必要があると思う。当分科会としても、この問題について関心を寄せていきたいと思う。

他、ご意見、ご質問等あればお願いしたい。

(分科会委員一同)

質疑なし。

(分科会長)

それでは、続いて議事(3)市公式LINEにおいて実施した「地域福祉に関するアンケート」の結果について、これも議事(1)と似ているが、異なる媒体で実施したアンケートということなので、事務局の方から資料の説明をお願いしたいと思う。

(3) 市公式LINEにおいて実施した「地域福祉に関するアンケート」の結果について

ア 説明

事務局から資料3に基づき、市公式LINEにおいて実施した「地域福祉に関するアンケート」の結果について説明した。

イ 質疑

(分科会長)

LINEアンケートの回答は、紙と若干違った傾向も出ていて、これはこれで興味深いと思う。皆様の方から何かご意見、ご質問があればいただきたい。

(岩澤委員)

資料1のアンケート調査結果の令和5年度の数値と、今ご説明いただいた資料3の8ページの表の一番左側の基準値、令和5年度の数値について。これは同じ数値が並んでるということによいか。

(事務局)

同じ数値である。

(岩澤委員)

一番上の設問については、あまり差がないように思う。近所付き合いに対する考え方の設問に対しては、郵送による配布だと69.7%、LINEアンケートの令和6年度の数値を見ると82.9%ということで、LINEアンケートの方が数値が高く出ている傾向が見受けられる。

紙のアンケート項目の設問は全部で40問以上あったが、今回のLINEアンケートは、11問だけで、それ以外は調査をしていないという理解によいか。

(事務局)

そのとおりである。

(岩澤委員)

紙のアンケートよりもLINEアンケートの方が良い結果になっているのは、なぜなのか。

(事務局)

LINEアンケートは手軽に回答できるということもあると思うが、資料3の1ページにあるとおり、今回は、セグメントで「医療」、「健康」、「福祉」などの配信を希望されている方に向けて、アンケート発信をしている。資料3の8ページをご覧いただきたい。上から5つ目の、福祉に「とても関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した人の割合を比べていただくと分かりやすいと思うが、紙のアンケートは60.1%で、LINEアンケートは92.3%となっている。LINEアンケートについては、元々、福祉に関心のある方

が回答しているため、全体的に数値が高くなっていると思われる。

(分科会長)

参考資料の地域別報告会の資料3では、年代別比較や居住地別比較など、結果を深掘りするために色々なクロス集計をしているが、LINEアンケートは異なり、横須賀市に居住しているか、していないかだけしか見てない。

こういった問題を解決していくために、どのような取り組みをしていくか考えるためには、やはり紙のアンケートの情報量が必要である。

ただ、その時その時で傾向を判断する場合、例えば今年はコロナやインフルエンザが流行ったので、人との行き来が切断されました、といったように、臨機に動いていく社会の姿をタイムリーに掴んでいくためには、簡易的な情報収集の方法かと思う。その一長一短も踏まえながら、解釈していくことが大事なことである。

(豊島委員)

LINEアンケートの数値が高いのは、単純に考えて、若い人が取り組みやすく、関心を持っていたからではないかと思った。

アンケート結果をいろいろ見ているが、先ほどの青木委員のご指摘のとおり、この回答だけでは市の福祉に対する市民の考えは分からないと思った。

(事務局)

資料3の2ページに、年代についての記載がある。「50代」、「60代」、「70代」の回答が多くなっているが、「30代」、「40代」の方にもお答えいただいている。「30代」、「40代」の回答が、もっと結果に反映されるとよいと思う。

紙のアンケートでは設問も多いことから、ご回答いただくにも時間がかかってしまう。LINEアンケートは簡単にできるので、毎年続けていきたいと思う。

(分科会長)

引き続きLINEアンケートは、定期的に継続されるようであるので、分科会にもその結果を継続して報告いただきたと思う。

それでは議事(4)横須賀市重層的支援体制整備事業実施計画(案)について、こちらも資料を用意してもらっているので、事務局から説明をお願いしたいと思う。

(4) 横須賀市重層的支援体制整備事業実施計画(案)について

ア 説明

事務局から資料4に基づき、横須賀市重層的支援体制整備事業実施計画(案)について説明した。

イ 質疑

(分科会長)

重層的支援体制整備事業については、地域福祉計画の計画案を議論している時期から、全体会でも議論に出ていた。地域福祉計画の概要版の最終ページにも、重層的支援体制整備事業の説明は記載されている。横須賀市ではいつから具体的にやるのかというのに対して、なるべく早期にといった話であったと思う。いよいよその調整も整って、令和7年度から活用していくことになり、その実施のための具体的な計画策定のところまでフェーズが進んできたということである。事業の中身についてだが、「ほっとかん」はじめ、既の実施していた取り組みは、今までもお聞きをしたところであるが、改めて計画という形で提示をされた。お気づきの点や、実際どうするのかというところで、気になる点があれば、ご発言いただければと思う。

(岩澤委員)

資料4を読み、中身は確かに以前からお聞きしていることが多くあり、驚くというところはなかったが、文言の使い方で気になった点がある。全体を見てみると、色々なところで、「複合化・複雑化」といった文言が、10か所ぐらい出てくる。前半の方では「複合化・複雑化」という、語順になっているが、途中からは、「複雑化・複合化」となり、別々の人物が書いたものを、合体したもののように見える。表記は統一された方がよいと思う。

(事務局)

ご指摘いただきありがたい。修正をさせていただく。

(岩澤委員)

表現としては、どちらが適切なのか。

(事務局)

おそらく、国の資料では「複雑化・複合化」となっていたかと記憶しているが、改めて確認する。表記については、どちらかに統一させていただく。

(分科会長)

実際に事業が令和7年度から動き出してみて、今までも同じような会議あったのかもしれないが、「多機関連携」や「支援会議」などが、この事業に基づくものとして実施されると思われる。どんなところを苦労したかといったものを含めて、分科会でも継続的に報告してもらおう。それがまた次期地域福祉計画を見直していく際の情報にもなると思う。そういった情報も聞きながら、次の議論を深めていきたいと思う。

他に委員からご意見、ご質問等あればお願いしたい。

(分科会委員一同)

質疑なし。

(分科会長)

議事（１）地域福祉計画の進行管理、議事（４）重層的支援体制整備事業実施計画の報告については、この後の全体会でも案件になっている。

改めて本日議論をして、地域福祉計画の進行管理は難しいと感じた。障害福祉計画や高齢者保健福祉計画は、数値目標が入った形で、進行管理をどうやってモニタリングしていくか、その枠組みでどこまで実際に把握できるのかということがある。アンケートの回収についても、アンケート未回答者をどうするかということも含めて、受けとめ方、読み方が難しい中で、全体を押し量ることの難しさを感じた。

そうであるがゆえに、委員の皆様の方から、現場での実態はこうだとか、地区で話し合った際の考え方はこうだ、という情報を補足していくことが、全体像を掴むために必要である。様々なバックグラウンドを皆さんもお持ちだと思うので、そこを照らし合わせながら、課題を分析していかなければならないというのを改めて感じた。引き続き、本件について、真摯に取り組んでいかなければと思う。

それでは、本日予定している議事は以上とする。以降の進行については事務局にお返しする。

10 その他

事務局から、令和7年3月31日をもって委員の任期が満了になり、今後、次期委員について、委員の推薦団体等に推薦依頼をする旨を報告した。併せて、公募委員については、現在募集を行っている旨を案内した。

11 閉会